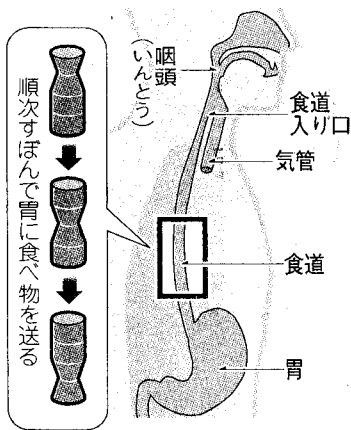


開発した人工食道の仕組み



食物送り込む人工食道

東北大開発 がん抑制効果も

末期の食道がん患者が食物をのみ込めるようにする。同時に、患部を温めることでがんの進行を抑えるという人工食道を、東北大加齢医学研究

所の山家智之教授（人工臓器学）などのグループが二十五日までに開発した。中国新聞の刊

新開発の人工食道は、電気を流した部分の直径がすぼみ、不通になると元の状態に戻る形状記憶合金を使用。順次電気を流すことで食べ物を胃へと送り出す仕組み。電気は体外装置を操作して発生させる。内側を高分子ゲルで覆い、食べ物の通りを良くし、電気を使った温熱療法の機能も付加、がんの進展を抑制することも可能という。同グループは、ヤギを使った実験に成功。ヒトへの臨床応用を目指している。山家教授は「食道だけでなく、胆管や胆道、尿管などさまざまな臓器への応用が期待できる」と話している。